

しんせいき 新生紀 92号

CATHOLIC SOCIAL ACTION CENTER IN KOBE

発行：カトリック社会活動神戸センター

代表：木谷 公士郎

住所：〒650-0004 神戸市中央区中山手通1-28-7

電話：078-271-3248 FAX：078-271-3280

E-mail: sinapisk-swc@r5.dion.ne.jp

2022年9月1日 発行

木谷 公士郎

例年8月にお届けしている「新生紀」夏号ですが、今回は9月1日の発行となりました。8月は日本のカトリック教会も8月6日から15日までを「平和旬間」と定めており、日本全体でかつての戦争の記憶と平和への願いについて思いを寄せる月となっています。しかしこの9月も、あえていえば9月にこそ、特にロシアによるウクライナ侵攻という事態が生じ、戦争が続いている今の状況の中で、平和ということについて記憶を呼び起こさなければならぬように思われます。

まず、9月18日、1931年のこの日に柳条湖事件が引き起こされ、「満州事変」が勃発、1945年まで続く戦争(ちなみにその終結を連合国との休戦協定の調印日と考えればそれは9月2日ということになります)を「十五年戦争」と考えれば、この日が後戻りのできない戦争の出発点となってしまいました。国際社会の流れに逆行し、他国の領土にほかの誰も認めることのない「国」の創立を強行してしまうという今のロシアの姿は、ちょうどかつての日本のあり方に重なるものです。この日以降、日本は国際社会からの孤立の途をたどることとなり、同時に日本が目論んだ中国大陸への進出も中国側の抵抗もあって思うようには進まず、華北侵攻、日中戦争全面開始と事態は泥沼化し、結局それは日米開戦の要因ともなってしまいました。昭和天皇は、戦後これらのことを回想し、「日本は支那を見くびりたり」ということばを遺しています。戦争のことを思う時、その出発点にさかのぼって考えることが、今の状況の中でより大切になっていると思います。

そしてこの「新生紀」の発行日である9月1日は、関東大震災の起きた日、「防災の日」とされています。そして1923年大震災が起きたすぐ後から「朝鮮人が暴動を起こしている」「井戸に毒を流している」という流言に動かされて多くの朝鮮人(中国人も)が日本人の「自警団」(一部には軍人・警察官を含む)によって虐殺されるという事態が生じました。このときに殺された人の数は立件された事件の死者総数は233人となるのですが、とてもそのような規模にとどまるものではなく、独立新聞特派員調査による「6661人」、吉野作造による「2613人」、内田良平の調査にもとづく「東京府のみで723人」、新聞報道の死者数合計「1464人」、朝鮮総督府による調査見込み数「813人」と当時から様々に集計されていて、正確な数は今なお不明なのですが千人単位に及ぶと考えられ、中国人の被害者も二百数十人から750人の間と推定されています。震災の中での不安や恐怖がデマ情報と結びついたことにより、このような悲劇が生じたのですが、軍や警察が当初このような誤情報にお墨付きを与えてしまったことが事態を決定的にしました。そしてそもそもこの誤情報に信憑性を与えてしまったのは植民地支配に由来する朝鮮人蔑視であり、その4年前の三一独立運動以降、日本人はいつか彼らに復讐されるのではないかとという恐怖心や罪悪感なのではないかと、この事件について「九月、東京の路上で」という本を出版された著者の加藤直樹さんが指摘しています。虐殺と侵略、戦争に行き着いた社会のあり様、日本人の心の実相に想像力を持って思いを馳せ記憶を継承しつづけるということ、この9月に大切にしたいと思っています(加藤直樹さんの「九月、東京の路上で」を記述の参考にさせていただきました)。

『カムアンドシー』

— 来て、みなさい —

この夏休みも私立六甲学院高等学校の生徒さんたちが炊き出しや夜回りの体験参加に来てくれました。聖書の一節からこの体験参加を私たちは「カムアンドシー」と名付けています。



↑元ボーイスカウトのリーダーだったYさんの指導を受けています！

どんなイベントでもそうだと思うのですが、この夏は「カムアンドシー」も新型コロナ、そして記録的な猛暑への対応を迫られる中での開催となりました。生徒さんへのガイダンスでも活動の意義や内容に加え、熱中症に気をつけてくれぐれも無理のないようにということ伝えるのに腐心しました。



濃厚接触等コロナの影響による欠席や体調不良の生徒さんもおられました。期間を通じて大きな事故なく終えること

ができてほっとしています。

年を経るごとに真摯な姿勢で参加して下さる生徒さんが増えているように思われます。引き続き体験による学びの場を提供していくことができると願っています。



「炊き出しボランティアに参加して」

近藤 絵美

私がこの夏、ボランティアに参加したいと思ったきっかけは、上司との会話でした。「近藤さん、ボランティアやったことある？」と聞かれ、学生の頃に釜ヶ崎に一度炊き出しに行ったことを思い出しました。

これまで私は仕事に追われ、自分のためだけに必死に毎日を過ごしてきました。将来への不安や焦りと闘いながら、一方で人に関わっていきたく最近強く願うようになっていました。「お金のためではなく人は良心で動くことがあると思いたい、きれいごとかもしれないけれど」と上司に言われ、その時ちょうど教会のボランティア募集が気になっていた私はやってみようと思立ちました。色々と考えすぎて一歩が踏み出せない私でしたが、今回の炊き出しボランティアは「一度行ってみよう」と、思い切って参加しました。

六甲カトリック教会の社会活動部の方から、カトリック社会活動神戸センターを紹介頂き、取り次いで頂きました。ちょうど仕事が夏休みの8月に是非一度と思い、8月2日（火）に初めて社会活動神戸センターを訪れました。学校からボランティアに来ていた県内の高校生3人と一緒に9時からミーティングに参加し、その日の流れを確認。「炊き出しは単なる昼食提供ではない。野宿者との信頼関係を築いていくことが大事で、相談につながっていく」とのセンター長の言葉が心に残っています。炊き出しはコミュニケーションの1つなのですよ。

小野浜公園に到着すると既におじさん達がパイプいすに座って集まっておられました。この日のメニューは「具たくさん味噌汁とおにぎり」。テントの下で手分けしてジャガイモ、ニンジンの皮をむき、きゅうり、ネギ、キャベツ、ちくわを切りました。約70人分の大量の野菜を切るのも、他のボランティアの方々やおじさん達と話しながらやっていると、煮ているうちにかさが減っていきました。初参加の私は初対面の方々ばかりでしたが、次に何をしたらいいのか的確に教えてくださり、親切で開放的で助かりました。ありがとうございます。

11時すぎに味噌汁が出来上がり、別の教会ボランティアさんの手作りおにぎりが到着しました。そして約70名の方々に味噌汁とおにぎりを一人ずつ手渡ししました。うれしそうな顔を見て喜びでした。暑さで体は疲れましたが、心の底から満たされて帰宅しました。

今回炊き出しボランティアに参加し、是非またやってみたくなりました。今後もできる範囲で、皆さまと一緒にさせて頂けたらと思っております。よろしく願います。

『迷える子羊は誰のこと?』

セシル



自分の特徴を1つあげるとすれば、「執念深い」それに尽きると思う今日この頃・・・
しかも何十年かけて成し遂げるパターンが多いので、達成されたことは、数少ない。

今度、夜まわりに参加している動機や感想の原稿依頼を受け、きっかけを思い出すと、それすらも執念に起因し、人生で達成できた数少ないことのひとつだと気付きました。皆様は何を大袈裟に・・・と思われるかもしれませんが、きっかけは27年前の阪神大震災に遡ります。

1995年1月17日震災の日は3学期の中間試験の直前でした。京都府南部の進学校に所属していた為、何よりもまず平常通りテストにのぞむよう学校から求められ、普通でないのに普通でいようとしていた異常な日々でした。家で観るTVの画面はすべて震災のこと。火災が拡がっていく様子も成すすべなく見続けるしかなく、本当に辛かったです。当時通っていたプロテスタントの教会で、少し前に日本ライトハウスに研修に行き、そこで知り合った大阪市在住の全盲の女の子と交流があったため、彼女に何度も電話をしていました。全く通がらず、心配で会いに行きたいと思っていたものの電車も道も寸断されていたため、京都から神戸方面に行くことは不可能でした。他人の心配をしたところで何も出来ないのだから、それを言い訳にせず勉強しなさい！と大人から言われ、救助や支援に参加出来ない無力さと普通を演じる申し訳なさとに悶々としていました。

ところがある日、クラスメイトのHさんが周囲の反対を押し切って、知人と一緒に線路を歩いて神戸にボランティアに行ってしまったとの噂が拡まりました。その日からHさんは学校に来なくなり、彼女抜きで中間テストが終わりました。担任の先生は、何故彼女を止められなかったのか責められていた

様子で顔が暗かった。その頃は誰一人彼女を肯定する人はいませんでしたが、段々炊き出しボランティアがニュースで取り上げられるようになり、Hさんがしているであろうボランティアとは、が有名になってきました。

3学期末、Hさんは体育館の台の上で、校長先生から表彰状をもらいました。テストをすっぽかしたHさんをバカだと言っていた人達もみんな手のひらを返したかの様に取りまきになり、先生達も初めから応援していたかの様に振る舞うので、見ていて本当に気持ち悪かった。ボランティアの経験が入試や就職にプラスになるという話も出始め、「だったら、未成年だから、将来の為のテストがあるからと子どものボランティア精神を潰したのはおかしいじゃないか?」とより悶々とするようになりました。

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。阪神大震災のボランティアをしなかった罪悪感から、当時は炊き出しに行く広島の知人を募金等でサポートしていました。

ところが、東北のボランティアに行き過ぎた結果、その人自身の生活が困窮し、ボランティアに関する費用を踏み倒すようになってしまいました。「まずは自分の生活の維持が先では?」と話したのですが、「東北の人達は自分を待っている。ボランティアに行かない人は、行く自分をお金で支援すべきだ。」と、話は平行線になり、いつしか会うこともなくなりました。「ボランティアに行くことが全てではない。日々の生活を単々と送り被災した地域の代わりに経済を回す人も必要なんだ。」と自分に言い聞かせ、でも悔しくてまた悶々としました。

2021年12月、転勤で神戸市に転居する事が決まり、まず始めに教会のボランティア活動を確認しました。家から無理なく行ける距離やスケジュールである事、私がいなくても誰かがいるから・・・と割り切る事、必要とされることに依存しない事等々、マイルールだけはプロボランティアと自嘲しながら

ら、27年目にして初志貫徹で夜回りに参加させて頂いております。

夜風に当たりながら夜回りをしていると、昔の事を思い出します。今思うと、震災後迷わず線路伝いに神戸に行ったHさんの姿は、迷わずイエス様につき従った使徒の様に純粹で力強く、私にはない行動力があつたので憧れたのだと思います。東北の震災の時も、遠方までお金を掛けてボランティアに行く友人達が華やかに見え、うらやましかったのでしょ

う？と自問します。突き詰めると、そんな不純な理由で夜回りに来ている私は迷える子羊の様だと思ひ至り愕然とします。困っている人はいないか？と探しながら一番迷っている私。そんな子羊を探して、イエス様も夜回りをされていることでしょう。すれ違いながら、いつか出会えますように。

＜夜回り＞ 毎週水曜日-19:30活動センターに集合
(中央区・兵庫区エリアを4コースに分けて回ります)
※第一水曜日は勉強会で夜回りは休みです。

「はな」

ねこ永田



あいかわらず、わが家には、ねこがいる。今いっしょに暮しているのは「はな」という初老の雌ねこである。保護猫だったが、おしゃべりすぎを除けば、人なつこいねこだ。ねこが、しゃべりすぎとは、ごはんを欲しがって啼く、おやつを欲しがる、トイレの掃除をしてくれなどの要求のコールはあたりまえだが、寝ている以外の時も、「はな」は啼いている。どこかへ飛び乗ったニャ。右往左往のあと決心をして高所へ飛び上がり、失敗しないで着地、ニャッ。冷やした水をペチョペチョ飲んだ、やっぱり冷やした水はうまい、ニャア。もう寝る？ニャハー。うるさいねこ奴、いちいち感想や問いかけ無用と睨むとニャーン。

7月の中ば近くだった。開けっ放しの押し入れ上段で、はなが、ぐたあとという姿態で伸びているのを見つけた。ふつうの寝姿ではない。腹は動いているが、呼吸は浅そうだ。心臓を指で探し触れてみた。浅い呼吸、十分に呼吸していない。触れた指に、そう伝わった。

熱は38℃少々で、猫にとっては高くはないが四肢に触れるが、されるがまゝ。目も半眼。飼い主は、この時、「ようすをみる」ということばに、こだわった。様子をみてる場合ではないのに、こだわった。

今年は梅雨明けから連日35℃以上という気温の上昇。地域によっては38℃~40℃と、まるで人間の病気のような気温。猫と高気温を、それ程気かけなくても良いとは言え、病ねこにとっては、つらい気温の高さではないか。「ようすをみる」場合ではない。だが、こだわってしまった。

かかりつけの動物先生にかけつけたが、先生は「はな」ちゃんとひと声かけ、飼い主の説明には返事をしないで、点滴を準備し、抗生剤など3種類の注射を肩の辺りに入れ、毎日通院してくださいと言う。

指示通り毎日点滴に通った。毎日通院から週3日の通院へと間隔があき、今日で1か月半が経過している。少しずつ回復しているのであろう。自分からゴハン、水、冷水、オヤツをちょうだいと言えるまでに回復した。先生にそう報告した。

はな、よかったな。来た時はダメかも…と思ったもんなど、細くなり、骨でコツコツのあたまを、柔かく撫でてもらった。はなは、ここも撫でてとせがんで、あごを見せた。ねこも生きものだ。生きもの同志もう暫く、ここでいっしょに暮らそうね。ね、「はな」。

～ お知らせコーナー ～

講演会のお知らせ

「マザー・テレサに学ぶ 祈りの心」



マザー・テレサの没後 25 年
を迎え、片柳神父のご案内で
マザーの歩まれた道を一緒に
辿りませんか。

2022年10月10日(月・祝)

13:00 開場

14:00 講演会

場 所：カトリック神戸中央教会 主聖堂

主 催：片柳弘史神父講演会実行委員会

後 援：カトリック社会活動神戸センター

TEL(078)271-3248

後日出来る上がる、ピラもご覧ください！

★寄付・賛助会について★

当センターの活動は皆さまのご支援によって
支えられております。今後とも当センターの活
動にご理解をいただき、ひとりでも多くの方が
必要な支援を受けられますようご寄付、または
賛助会へのご加入をお願い致します。

◎一般寄付および賛助会員費の振込み先
郵便振替口座 00910-5-141408
「カトリック社会活動神戸センター」

※ 同封の払込取扱票は発送作業の都合上、すべての
の発送先に毎回同封されています。ご了承のほど、
宜しく願い申し上げます。

神戸地区社会活動委員会

★シナピス神戸より★

神戸地区のHP「つながり」のアドレスです。

<http://catholic-kobe.org/>

*センター活動も紹介されています。

<http://catholic-kobe.org/tunagari/contents/katudocenter.html>

★物資倉庫より★

いつも物資提供にご協力いただき
ありがとうございます。

☆ 必要な物：

- ・男性用衣類（比較的新しい物）
- ・トランクパンツLサイズ、くつした
*いずれも男性用新品



- ・タオル、石鹸、
T字型使い捨てかみそり、
トイレトペーパー
ポケットティッシュ（入居セット用）



- ・食器用洗剤、泡ハンドソープ（詰替えOK）
- ・食品用ラップ、紙コップ、
割りばし、スプーン（コンビニなどのもの）
（夜まわりのおにぎり、みそ汁用）
- ・蚊取り線香（夜まわり配布用）
使い捨て貼るカイロ（夜まわり用）

- ・カップ麺、レトルト、缶詰類、乾物など
（現物支給用）

- ・スティックシュガー、お菓子など

- ・切手（使用可能なもの）

※毛布・寝袋、タオルケット、敷パッドは
通年にわたって募集しています。



* 特にお願い!!

カップ麺類 切手（使用可能なもの）

消毒用アルコール、紙コップ

☆ 必要でない物：

- ・女性用と子供用・背広の上着、コートなど
は需要がありません

*人手不足のため、受け取りに伺えませんが、
ご了承下さい。

★「秋のバザー&こどもまつり」と「クリスマス・チャリティーコンサート」は
新型コロナ感染予防のため中止いたします!!



活動紹介

まずお問い合わせください。 ☎078-271-3248 (*祝日は休み)



★高齢者、障がい者支援

主に高齢者、障がいのある方々への訪問活動やコミュニティ作りへの支援。レターボランティアによる交流をしています。

<活動日>

月曜日-10:00~15:00頃

訪問(住宅・病院・施設)

*第3月曜日 13:00~ *休止中

HAT 神戸脇の浜にて『脇の浜茶話会』



★外国人支援

日本で生活している外国籍の方々と交流を持ちながら、日本語を学ぶ場の提供。
相談・関係機関への連絡・情報の提供等。
※NGO神戸外国人救援ネットとも連携しています。

『日本語でこんにちは』 *休止中

<活動日>

木曜日-10:30~12:00&13:30~15:00

日曜日-13:30~15:00

☆なかやまてカフェ *休止中

野宿から居宅に移った方のための集い。
(第2水曜日 13:30~15:00)

★野宿者支援

野宿したくない人が野宿しないですむように。
今、野宿している人の人権がそこなわれないように。
可能な選択肢を提供し本人の意見を尊重しつつ
出来る限りのサポートをしています。

<活動日>

水曜日-19:30~22:30頃

夜まわり(第1水曜日は勉強会)

火・木・土曜日

昼食提供(小野浜公園にて)

火曜日-10:00~16:00

生活相談

木曜日-10:00~16:00

生活相談/物資提供

金曜日-10:00~16:00

土曜日-10:00~16:00

生活相談

*医療相談、さんぱつ、シャワー、
は休止中

☆中山手ミーティング YOU YOU *休止中

自分をみつめ、自分の生き方を考える
仲間の集まりです。気軽にお越し下さい。
(金曜日 10:30~12:00)

★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ バックアップしています ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★

*全グループ休止中です。

A.A アルコール依存症の方の自助グループミーティング

(火曜日 13:30~、水曜日 19:00~
土曜日 13:30~&19:00~)

N.A 薬物依存症の方の自助グループミーティング

(木・金曜日 19:00~)

F.A ご家族や友人にアルコール、薬物、ギャンブル
買い物、ゲーム、摂食障害等さまざまな依存症の問題を
持つ方のための自助グループ
(火曜 19:00~20:30)

家族の回復ステップ12 アルコール依存症者を家族や
友人に持つ方たちの集まりです。

(第2、4土曜 10:30~12:00)

7、8月とコロナ感染拡大(第7波)の中、感染予防を徹底しながら、小野浜での炊き出しや物資提供、夜回りを継続してきました。洗濯利用も一部再開しました。

『日本語でこんにちは』は10月から再開予定です。

茶話会や中山手カフェはまだ再開予定がありませんが、暑中見舞いや安否確認などでつながりを続けています。早く再開できるよう願っています。